CHALLENGER!

一人ひとりの想いに寄り添い 日々の暮らしを豊かに

秋田市　**岩根 裕子**（いわね ゆうこ）さん

コーディネート業務および花の販売

秋田市内において、まちづくりや市民活動の領域でコーディネーターとして人や組織をつなぐ役割を担ってきた岩根裕子さん。アイデアを形にするための調整や企画設計を行い、地域の取り組みを裏側から支えてきた。

2025年12月には屋号「Ne（ね）」を立ち上げ、これまで経験を積んできたコーディネーターとしての仕事に加え、花屋の事業を新たにスタート。花屋とコーディネーター、２つの事業を武器に岩根さんは活動の幅をさらに広げようとしている。

防災とアートの出会いが導いた道 ――「仕組みを生む人」として歩み始めた理由

大阪府出身の岩根さんは、大学時代にまちづくりや地域コミュニティについて学んでいた。特に関心を寄せていたのが「仕組みづくり」だったという。イベント開催は地域を知ってもらうきっかけになる一方、行動する人や支える人が育たなければ一時的な賑わいにとどまってしまう。根本的な課題解決には、物事が自然に生まれ、住民が主体的にまちづくりへ関われる仕組みが必要だと学んだ。

その後、兵庫県神戸市に拠点を置く特定非営利活動法人「プラス・アーツ」に就職した。アートの力で社会課題の解決をめざす同法人で、多くの人に防災を学んでもらうため、子どもたちが遊びながら防災に触れる機会の創出や、防災訓練に参加しづらい子育て世代が気軽に参加できるきっかけとして、おもちゃの交換会などを行ってきた。地域活動を支える仕組みづくりをサポートすることにやりがいを感じる一方、既存プログラムの普及にとどまらず、新たな仕組みそのものを生み出したいという想いが次第に強まっていった。

ゼロからの仕組みづくりと花屋のはじまり

今から8年ほど前に秋田公立美術大学の社会連携を担う学外法人「アーツセンターあきた」の立ち上げに応募。採用され秋田県に移住してからは、産学官連携の中間支援や、様々なプロジェクトのマネジメントやコーディネートを経験しながら、ゼロイチで新たな仕組みを生み出すノウハウを習得していった。

アーツセンターあきたでの業務の傍ら、関西で友人の花屋を手伝った経験を活かし、秋田で自ら花屋の仕事を始めたいと思い立つ。そして2025年5月に秋田市の拠点「AKITA “KARA”」で初出店。挑戦が自信につながり毎月出店するようになり、まちの見え方も少しずつ変化した。

2025年12月より双方の活動を本格化させた岩根さんの屋号は「Ne（ね）」。この名前には、自身の苗字である岩根の「ね」と、草花の「ね」、草の根活動の「ね」など、さまざまな意味が込められている。

手作りのリースも依頼可能。屋号「Ne」のロゴがかわいい

生花を使ったハンドメイドのアクセサリーも購入できる

誰かの挑戦に寄り添うコーディネート

花屋とコーディネーター、一見すると関連性が無さそうに見える２つの仕事だが、相手との対話を通じて作品を仕上げていくプロセスには共通するところがあるという。

岩根さんは、その面白さをこう語る。

「やり取りを重ねながら１つの目標に向かい、達成感を共有できるのが魅力です。いくら素敵なイメージが浮かんでも、１人では完成品を作れません。だからこそ、誰かの想いに寄り添い、聞き取りながら共に形にしていくプロセスが何より楽しいですね」。

コーディネーターとして市民一人ひとりの「やりたい」を後押ししつつ、花屋として暮らしの中に草花の温もりを届ける。挑戦の種が彼女ならではの二刀流スタイルで芽を出し、秋田のまちに根を張り始めている。

活動詳細

アーツセンターあきたのコーディネーターとして週5日勤務する傍ら、副業として花屋を営む。花屋は月１回程度のAKITA"KARA"での出店を中心に、花を使ったワークショップや他地域へのイベント出店も行っている。そのほか、全国から個人でコーディネート業務を請け負う。花屋の営業状況や、活動の詳細はインスタグラムにて。

instagram

屋号 Ne (ね)　**事業形態** 不定期POP UP出店（月２～３回程度）

岩根さんからひとこと

ぜひ一度、花屋をのぞきに来てください！

花を買いにくるのも、花の相談も、おしゃべりも大歓迎。
まずは気軽に遊びに来てください！